



玉名市立小天小学校

学級数 8学級
児童数 134名

玉名市小中一貫教育…玉名市は全小中学校で小中一貫教育を進めています。

＜天水中学校区小中一貫教育の目標＞

ふるさと天水町に誇りをもち、たくましく生き抜く児童・生徒の育成

＜天水中学校区でめざす子ども像＞

知：自分の思いや考えを伝え合い学び合い未来を切り拓くことができる児童・生徒

自ら学ぶ態度や望ましい学習習慣の形成を図り、確かな学力を付ける。

徳：自他を大切に、感謝と思いやりの心をもった児童・生徒

時、場、相手に応じて主体的に行動できる態度を育てる。

体：生涯を通して、健康・体力づくりに積極的に取り組む児童・生徒

自ら目標を持ち望ましい生活習慣の形成を図り、健康で健やかな体を育む。

＜本校の教育目標＞

『豊かな心と確かな学力を身に付け、夢に向かってたくましく伸びる小天っ子の育成』

＜気づき・考え・行動する小天の子＞

① 思いやりのある子ども

② 明るくたくましい子ども

③ 学び考える子ども

1 小天小学校プライド ～小天小で大切にしているもの～



本校は、玉名市の最南端で二の岳、三の岳の麓に位置しています。令和2年度より小天東小学校と小天小学校が統合したため、校区が広くなりました。旧小天東校区と大平地区、八久保地区、丸尾地区の児童はスクールバスで登下校しています。

校区内には、夏目漱石の小説「草枕」ゆかりの地及び文化的所産があり、眺望がよく県内外からの利用者が絶えない温泉施設があります。保護者は、みかん等柑橘類栽培やイチゴ、メロン、ナスなどハウス園芸をする農家が多いのですが、近年会社勤め等の家庭も増えています。

本年度は、県内外での新型コロナウイルス感染症の発症が相次いで起き、やむなく4月14日から5月31日まで臨時休校となりました。これに伴い授業参観やPTA総会等の各種の校内行事が中止や延期となりました。

例年では、校内行事やPTA活動における保護者の出席率は大変高く、学校教育に対して関心が高く協力的です。そのおかげで、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応の中でも、子ども達は安心して元気に学習活動に励むことができます。

例年行われていたPTA行事として、5月には美化作業や交通教室、お米の苗床づくり等があります。運動会では、「綱引き」「三輪車リレー」「四人五脚」などの競技で楽しく参加されて運動会が盛り上ります。7月には、救命救急法講習会やバザー、プール監視、学年レクリエーション、防犯パトロール、8月には親子美化作業、資源回収、9月には親子球技大会等が実施されます。しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のために、多くのPTA活動が中止か内容の変更を余儀なくされています。

134名の児童は、素直で明るく学年や男女を問わず仲良く過ごしています。例年、月曜日から木曜日まで1年生から6年生は、8つのグループに分けて縦割り班による掃除をしています。どの班も「黙って静かに協力しながら掃除をすること」を目標にして取り組みます。上級生がリードしながら仲良く協力しながら、責任を持って自主的に取り組んでいる子どもたちの姿はほほえましいものです。縦割り班の活動の一つとして、みんなで遊ぶ(主にボールゲーム)活動があります。縦割り班の活動を通して1年生から6年生までのコミュニケーションを大いに図ることは、小天小の自慢の一つです。

2 めざす子ども像～学びの足跡～



主体的に、思いや考えを伝え合い、
学び合う小天っ子の育成
～言葉による見方・考え方を働かせる表現活動を通して～

本校の教育目標は、『豊かな心と確かな学力を身に付け、夢に向かってたくましく伸びる小天っ子の育成』です。この達成のために、上記の研究テーマを掲げ、言語活動を充実させた授業改善と環境づくりに取り組み、主体的に学習に臨む子どもの姿を目指しています。



仮説1

課題と出会い、自分の考えを可視化し、他者との対話によって広げたり深めたりし、自身の学びや変容を自覚できる振り返りを工夫した授業を行えば、主体的・対話的な学びの姿が育つであろう。



- ①身に付けさせたい力の明確化と言語活動の設定・単元構成の工夫
- ②学びを方向付ける「問い」の工夫
- ③協働解決、対話活動の場の設定の工夫
- ④思考の過程の可視化の工夫(ノートでの可視化)
- ⑤自らの学びに気付くことができる振り返りの工夫



仮説2

他教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教科等横断的な視点でその目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列すれば、主体的・対話的な学びの姿が育つであろう。



具体的方策【カリキュラム・マネジメントづくり】

- 身に付けたい力を育成できるような言語活動の工夫
- 各教科等をコンピテンシー(能力)ベースで連携
- 「OAMAタイムズ」等の言語活動の改善
- ノート検定の充実と家庭学習の充実



★ノート検定(グッドノート10年目)の取組

ノートの書き方を身に付け、より良いノート作りへの関心意欲を高め、学習内容の定着を図ることをねらいとして定期的に「ノート検定」を体育館で実施しています。発達段階に応じて「検定のポイント」を作成して、児童のノート作りへの意識を高めています。ノート検定に合格した児童の中から、各担任が学級から2名のノートを選び、「今月のグッドノート」として校内に掲示しています。10年間続いているこの取組は小天小の誇りです。

★読書量がすごいです！

小天小の児童は、本を読むのが大好きです。児童数は減少傾向にありますが、読書量は、年々増加傾向にあります。



3 避難訓練の取組



様々な自然災害等に備えて、避難訓練を計画・実施しています。6月には、避難経路の確認と地震津波避難訓練を実施しました。第1避難場所から第2次避難場所(裏山)まで約15分ほど移動する訓練を実施しました。裏門から道路を横断し標高差約60Mの急な上り坂を一気に移動する訓練でした。1年生の児童は、6年生に手をつないでもらいながら上り坂を素早く移動することができました。また、6月16日には、4年目になる「引き渡し訓練」を実施しました。事前に計画を何回も練り直しながら、準備したことで7月10日の授業参観日の大雨時の引き渡しにも効果がありました。